

第三次登米市地球温暖化対策地域推進計画（案）に対する意見の概要及び意見に対する考え方

No.	項目	意見の概要	意見に対する考え方
1	第4章 目標達成のための取組 3 2030年度の目標達成に向けた取組 (37頁～39頁)	<p>政府の計画で削減などの取組の数値を見ても、高すぎてイメージがつかなかった。市として、長い年月をかけて取り組むことなので、環境についての教育を推進し、子どもでも自分達ができるゴミの削減からリサイクル、省エネ（電気）に意識して取り組むことができるようになったらいいと思う。</p> <p>家で省エネといっても、各企業の方が産業の大部分を占めるので、排出量を抑制するような動きを小さな会社でも、目標をもって減らしていくように、理解と協力をお願いしていくべきである。</p>	<p>2050年までのカーボンニュートラル実現のためには、長期間にわたる継続的な温室効果ガス削減の取組が必要であり、ご意見のように、次世代を担う子どもたちの関心と理解を深めていくことが重要であると認識しております。本計画の2030年度の目標達成に向けた取組において、次世代育成に向けた小中学生へのジュニアミーティングや出前講座、親子・一般市民向け講座などの学習機会の充実を図ることとしております。</p> <p>また、事業者の皆様にも、CO₂家計簿の普及による「見える化」や、省エネ行動チャレンジなど、排出量削減に有効な取組を情報提供し、理解を深めていただくとともに、CO₂家計簿の利用した見える化を促し、目標を持って削減行動に取り組んでいただくよう普及啓発に努めてまいります。</p>
2	第4章 目標達成のための取組 3 2030年度の目標達成に向けた取組 4 再生可能エネルギーの導入 (37頁～41頁)	<p>温室効果ガスの削減、環境維持・保全については必要なことだと思うが、資料中の、EVやソーラー発電など、電気エネルギーの推奨と取れるような内容には疑問がある。</p> <p>経済効果が目的と割り切った話であれば良いと思うが、対環境であれば、電力需給の増加に伴う発電施設の過稼働や温室効果ガス以外の問題の方が大きくなるのではないかと。</p> <p>ソーラーパネルの廃棄やバイオマス発電の排気・排熱、コスト増等、一定のリスク・課題が想定されるならば、温室効果ガス以外の環境リスク、費用対効果等についても詳細な言及が欲しいと思う。</p> <p>本案が、国や県レベルで大枠として話であれば良いと思うが、基礎自治体としてメガソーラーの乱立やバイオマス発電所の公害など、一定の課題がある取り組みを、登米市が今のタイミングで右に倣えば時期尚早と思うし、諸問題をリカバリーできる見込みがない取組であれば、他の自治体で一定の成果・評価が出揃うまで静観しても良いのではないかと。</p>	<p>温室効果ガス削減には、必要なエネルギーを化石燃料から転換するだけでなく、省エネ等による消費エネルギーを減らすことや太陽光発電などの再生可能エネルギーを導入することで、発電施設の過稼働は防げると考えます。</p> <p>本計画では、太陽光発電と木質バイオマス熱利用について、太陽光パネルのリサイクルや木質バイオマスの利活用方法についての課題を示しておりますが、リスクや費用対効果の把握に努めるとともに、他自治体の事例も参考に、調査・検討を行いながら、導入を促してまいります。</p> <p>また、メガソーラーやバイオマス発電などの設置にあたっては、「登米市自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例」により、自然環境の保全や生活環境に配慮した適正な導入を促してまいります。</p> <p>なお、近年、気候変動や生態系への影響など様々な環境問題が顕著となっており、自治体としては、地球温暖化対策が急務であることから、本計画を推進していくものです。</p>